鴻池会地域ケアセンター**11月公開研修会のご報告**

「認知症を正しく学び地域で支えよう」
“介護離職ゼロ”は可能か

H27年11月20日（金）の公開研修会は、「認知症の人と家族を地域で支える“介護離職ゼロ”は可能か」と題して、秋津鴻池病院認知症疾患医療センター・センター長：平井基陽先生を講師に開催させて頂きました。

今回は池之内「とんぼ会」、民生委員、地域ボランティア、デイサービス、特養、養護老人ホーム、訪問看護、福祉用具事業所、地域包括支援センターの方々など、総勢100名を超えるご参加を頂きました。

先ずはじめに、「介護離職ゼロに向けた、特養の増床計画など政府の取り組みについて」そして、今年10月に内閣府より発表された「認知症に関する世論調査結果」が紹介されました。

国や自治体に求める認知症対策として、介護施設の充実が最も多く、次にできるだけ早い段階から医療・介護などのサポートを利用できる仕組み作り、家族の身体的・精神的負担を減らす取り組みが重要であることが理解できました。

平井先生からは、家族や介護する人に対するサポートとして、介護者の心理的支持や、社会資源の調整、身近に相談窓口があることなどが大切であり、さらに行政と一体化した仕組みの構築が必要であるとお話がありました。そして、介護する人への支援のポイントは、①受診拒否への対応・早期発見の大切さを正しく伝えること、②認知症の理解や介護方法、③喪失体験への理解④認知症の行動心理症状への理解であると教えて頂きました。

最後に先生は、「認知症の方が住み慣れた地域で生活を続けるために、ご家族の支援がとても重要であり、どれだけご家族をサポートできるかである」と伝えられました。

今回の研修会は、認知症介護の家族支援の大切さについて認識すると同時に、ケアマネジャーとして、地域でその役割を担っていかなければならないと感じ、あらためて家族支援の重要性に気づかされた研修会でした。